

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・新学習指導要領を着実に実施することで、主体的に学習に取り組む態度を育成し、探究力を育む。	①新学習指導要領を適切に運用し、生徒一人ひとりの主体的に学習に取り組む態度と探究力を育む。	①発問・課題に協働して取り組み思考する授業、学びを主体的に深めるための授業への転換を図る。	①発問・課題に協働して取り組み思考する授業、学びを主体的に深めるための授業を実施することができたか。	①研究授業等を通じた授業改善により、発問・課題に協働して取り組み思考する授業、学びを主体的に深めるための授業を実施することができた。	①生徒による授業評価等の結果をもとに、授業改善について具体的な数値によって検証していく必要がある。	①評価の数値も大事だが、授業への具体的な要望を吸い上げられるよう生徒とコミュニケーションを重ねてほしい。	①さらなる授業改善について、授業評価の具体的な数値等に基づき検証していく必要がある。	①授業評価の内容を整備し、授業への具体的な要望を吸い上げ授業改善に活かしていく。
		・指導と評価の一体化の視点を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現を追求する。	②指導と評価の一体化を目指した組織的な授業改善に取り組む。	②形成的評価を充実させた組織的な授業改善を実施する。	②組織的な授業改善の取り組みとして、形成的評価を充実させた授業改善を実施できたか。	②形成的評価等を活用した指導と評価の一体化をテーマとして、授業改善を実施することができた。	②指導と評価の一体化について、より効果的な方法等の検討に引き続き組織的に取り組んでいく必要がある。	②義務教育段階でも重要な指導と評価の一体化について、高等学校でも連続して深めていることは評価できる。	②指導と評価の一体化について、より効果的な方法等の検討に引き続き組織的に取り組んでいく必要がある。	②研究授業週間や日々の教材研究を通して、指導と評価の一体化のより効果的な方法の検討に引き続き取り組んでいく。
		・ICTやAI等、新たな技術を取り入れ、新時代に対応できるDX人材を育成する。	③効果的なICTの利活用を追求するとともに、生徒個々の学習支援の充実を図る。	③授業や特別活動において効果的なICTの利活用を追求するとともに、1人1台端末の授業での活用を推進する。	③授業や特別活動において効果的なICTの利活用を実践できたか。また、1人1台端末の活用を推進できたか。	③電子黒板の活用など、授業や特別活動において効果的なICTの利活用を実践することができた。	③電子黒板の活用など、授業や特別活動において効果的なICTの利活用を実践することができた。	③ICTの活用に取り組む姿勢は評価できる。生徒と一緒に授業を作り上げるような姿勢で取り組んではほしい。しかしICT技術だけに左右されない授業づくりは必要である。	③電子黒板の活用など、授業や特別活動において効果的なICTの利活用について引き続き取り組んでいく。	③研修等を通して、効果的なICTの利活用について引き続き取り組んでいく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	・予防的な生活指導を実践しピア・サポートを浸透させる。	①全職員の共通認識のもと、予防的な生活指導を通じて、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	①基本的な生活習慣の確立に向け、生徒一人ひとりの状況を把握した上での指導に取り組む。	①学校全体で共通認識のもと、予防的な生活指導を実施できたか。	①基本的な生活習慣の確立に向け、月ごとに生徒の実態に合わせた遅刻指導を実施した。	①学校全体で共通認識を図るため、校内の指導規準等の見直しを継続していく。	①各指導がただ注意だけでなく、原因を探り一緒に解決しようとしていることは素晴らしい。	①基本的な生活習慣の確立に向け組織的に指導をおこなつた。	①学校全体で共通認識を図るため、校内の指導規準等の見直しを継続していく。
		・生徒一人ひとりの高い規範意識とコミュニケーション能力を育成する。	②困難を抱える子どもを早期に発見し、生徒の課題解決に向けて組織的に支援を行う。	②困難を抱えた生徒について情報共有を迅速に行い、SCやSSWと連携した支援を行う。	②生徒の状況に合わせ、適切な対応ができ、外部機関とも連携できたか。	②サポートドックなどのアンケートや担任との個人面談を活用し、困難を抱える子どもたちの早期発見に努めた。また、必要に応じてSCやSSWと連携し、適切な支援をすることができた。	②外部機関との連携をより円滑にするため、S C・S S W間での情報共有の場を定期的に設定していく。	②生徒に対する組織的な支援が行われているが、さらに人的資源が増やされることを期待する。担任だけが抱え込まないよう注意してほしい。常に先々を見据え、早期対応をしていくことを継続しが求められる。	②困難を抱える生徒の早期発見に努めた。必要に応じSCやSSWと連携し適切な支援をすることができた。より円滑な外部機関との連携が求められる。	②困難を抱える生徒の早期発見に努めた。必要に応じSCやSSWと連携し適切な支援をすることができた。より円滑な外部機関との連携が求められる。
		・学校行事や部活動等を通じて、生徒の主体性とリーダーシップの伸長を図る。	③学校行事や部活動等を通じて、生徒の主体性とリーダーシップの伸長を図る。	③学校行事や部活動において、自らが考え工夫して活動ができるように導き、実践的な態度と主体性を伸長させる。	③学校行事や部活動において、生徒が自らが考え工夫して活動ができる場面を作ることができたか。	③各行事や部活動において、生徒が主体的に活動することができる運営方法を検討し、実施することができた。	③各行事の運営方法については、より教育的効果が認められるであろう方法を継続して検討していく。	③これまでの活動を振り返りながら、生徒の活躍の場の提供をぜひ進めあげてほしい。	③各活動において、より生徒が主体的に活動することができるように運営方法についての検討を進めていく。	③これまでの活動を振り返り、よりよい運営方法についての検討を進めていく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・ウェルビーイングの視点から、確かな目標を設定し、粘り強く進路実現を図る力を育成する。	①ポートフォリオを継続的に積み上げ、生徒のキャリア意識の形成を図る。	①蓄積してきたポートフォリオを通して、生徒が自己理解を深め、成長を実感できるよう支援する。	①主体的にポートフォリオの作成に取り組み、振り返りを通して、自己評価し、成長を実感することができたか。	①各学年で行事や模試の振り返りを行ったが、考えを深めるための十分な時間を確保できなかつた。	①振り返りの時間を長期休暇前にも設定する。蓄積してきた内容について自己評価をさせて、その目標達成に向けて支援する。	①生徒が自分の将来を描くことのできる機会の提供を多くお願いしたい。	①行事や模試の振り返りについて、生徒が考えを深めるための時間の確保について検討する必要がある。	①振り返りの時間を長期休暇前にも設定する等、生徒が考えを深める時間を作ることも、蓄積してきた内容について自己評価をさせて、目標達成に向けた支援を継続する。
		・3年間の体系的なキャリア教育計画を作成し、進路指導・支援の充実を図る。	②生徒一人ひとりが将来への展望を持ち、希望する進路が実現できるよう組織的に支援する。	②進路ガイダンス、職業講演会、インターンシップを活用し、上級学校や職業選択に参考となる情報や機会を提供する。 担任や教科担当者と連携を図り、面談や個別指導等により、きめ細かい支援の充実に取り組む。	②生徒の進路希望状況を各学年と共にし、希望する進路実現に向けて綿密に連携し、適切な支援をすることができたか。	②インターンシップへの参加が増加するなど意欲的にキャリア学習に取り組む様子が見られた。 生徒が希望する進路先について、担任等とこまめに情報共有し、進路実現に向けて協力して進めることができた。	②総合型選抜や学校推薦型選抜を希望する生徒が増えている現状を踏まえ、早期からの組織的・段階的な支援体制を構築できるよう努める。	②様々な選抜方法が増えている中で、進路実現に向けて情報収集が容易に行える支援体制の構築を期待する。	②生徒が意欲的にキャリア学習に取り組む様子が見られた。生徒が希望する進路先について、担任等とこまめに情報共有し、進路実現に向けて協力して進めることができた。	②様々な選抜方法が増えている中で、進路実現に向けてその情報収集がより容易に行える支援体制を構築していく。
4	地域等との協働	・シチズンシップ教育、主権者教育の充実を図る。	①同窓会やPTA、学校運営協議会と連携して、身近な教育資源を有効活用するための取り組みを進める。	①OB・OG講演会や地域貢献活動を通じ、同窓会やPTA、学校運営協議会と連携した取り組みを進める。	①学校運営協議会等での協議を活かし、身近な教育資源を有効活用するための取り組みを進めることができたか。	①OB・OG講演会や地域貢献活動について、地域社会と連携した取り組みを進めることができた。	①より生徒と地域社会との関わりを深めていく。引き続き地域と連携して活動すると共に、地域に貢献する活動に取り組んでいく。	①連携して社会に関わることのできる活動について考えていきたい。地域の情報を敏感に取り入れていく必要がある。	①地域社会と連携した取組をいくつか進めることができた。身近な教育資源について引き続き情報を取り入れていく必要がある。	①身近な教育資源や地域の情報を積極的に取り入れ、引き続き地域と連携して活動すると共に、地域に貢献する活動に取り組んでいく。
		・地域の様々な施設や産業との協働を通して、社会に貢献できる人材を育成する。	②地域等と協働して、生徒が主体的に社会に関わることのできる活動の充実を図る。	②地域貢献活動等、生徒が主体的に社会に関わることのできる活動を実施する。	②地域等と協働して、生徒が主体的に社会に関わることのできる活動を実施できただか。	②OB・OG講演会や地域貢献活動について、実施内容や形態を改め、その充実を図ることができた。	②今年度改めた取組内容について振り返りを行い、来年度の実施に向けた改善点を見つける。	②地域の課題などに高校生のアイデアを活かす機会が増えるとよい。教職員も積極的に地域に出ていく必要がある。	②地域との協働的な活動について、今年度改めた取組内容について振り返りを行い、改善点を見つけていく必要がある。	②地域との協働的な活動について、今年度改めた取組内容について振り返りを行い、改善点を見つけていく必要がある。
5	学校管理 学校運営	・様々な教育活動についての情報発信を積極的に行い、本校の魅力の発信に努める。	①学校説明会やホームページの内容の充実を図るとともに、学校行事についての情報発信を積極的に行う。	①学校説明会や各学校行事について、定期的なホームページの更新等の情報発信を行うことができたか。	①適切な時期にホームページを更新し、情報を発信することができた。	①適切な時期にホームページを更新し、情報を発信することができた。	①最新の情報収集に努め、正確な発信を行う。	①中学生にとって情報源としてホームページは重要である。来年は学校説明会の機会も減るので、魅力的な発信を期待する。	①適切にホームページを更新することが検討が必要である。	①学校説明会の適切な開催時期や形態について検討し、実施する。
		・事故・不祥事を根絶し、信頼される学校づくりに努める。	②成績処理の事故防止を図る。	②ディジタル採点ソフトを導入すると共に、成績処理支援システムの円滑な利用を図る。	②成績処理の事故を無くすことができたか。	②出欠登録や採点システムの電子化により、確認作業等の業務負担が軽減し、採点間違いが減少した。	②様々な業務が電子化され、これまでの業務手順が変化している。	②事故一つで信用を失うということを肝に銘じていただきたい。	②採点ソフトを導入し、成績処理支援システムの円滑な利用を図ることができた。	②研修会や協議を通じ、引き続き様々な場面における事故・不祥事を起こさせない環境を構築していく。